



カバは本来、アフリカ大陸の一部にしかいない。しかし現在、コロンビア北部を流れるマケナレナ川には、80頭ほどが生息しているという。

南米コロンビアで、外来種のカバが増えている。ある男が輸入した4頭が野生化したのがきっかけだ。生態系への影響などを心配する学者らが駆除すべきと指摘し、議論になっている。

私設動物園から野生化 カバ増える

4頭 → 80頭 駆除？ 観光資源？ 議論に



野生のカバ（アフリカ・ケニアで）

動物園から取り寄せたオス1頭、メス3頭のカバがいた。93年12月に男が亡くなる。残された動物たちは他の動物園に移されることになった。だが、運ぶのに費用がかかるなどの理由で4頭のカバは放置された。周辺にカバをおそうような動物はおらず、自由の身となったカバは、その数を増や

本来、アフリカ大陸の一部にしかいないはずのカバがなぜ、南米のコロンビアにいるのか、についても答えを探してみましょう。

1 カバは本来どこにいる生き物ですか。適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① アフリカ大陸の一部
- ② 南米のコロンビア
- ③ 川沿いの街ならどこにでもいる
- ④ 動物園にしかいない



2 カバはなぜ増えているのでしょうか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 米国の動物園からたくさんのカバを輸入したから。
- ② 周辺にカバをおそうような動物がいないから。
- ③ カバは他の動物よりも寿命が長いから。
- ④ アフリカよりもコロンビアの方がカバのエサがたくさんあるから。
- ⑤ カバは一度にたくさんの子どもを産むから。



3 次の考え方は、(ア) 学者、(イ) 川沿いの土産店の人々、(ウ) 動物愛護団体のメンバーのどれに近いですか。() にア、イ、ウのいずれかを入れましょう。

- (イ) カバがいなくなると困る。
- (ウ) カバを殺さないですむ方法を考えるべきだ。
- (ア) カバを殺す以外に解決方法はない。



川沿いの住民にとっては、「野生化したカバ」が観光資源になってしまっているようです。

ただ、このまま放っておくと、カバは何匹になると予想されていますか？ 解決しないと大変なことになりそうですね。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

ザリガニ掃討大作戦

在来種復活へ新罟導入

池の水を抜く「かいぼり」で、外来種の駆除や水質浄化が進む東京・井の頭池で、「最後の大家」とされてきたアメリカザリガニが激減している。東京都などはこの約3年間で約4万匹を駆除し、今春からは、ペットのエサやり機を応用した強力な罟を導入。環境保全に取り組む市民団体のメンバーらは「外来種の一掃に光が見えてきた」と期待を膨らませている。

東京・井の頭池

井の頭池は、都立井の頭恩賜公園（三鷹市、武蔵野市）の中にある。都によると、かつては湧き水が豊富で、70種類ほどの水草が確認され、在来種の魚やエビなども多く生息していた。だが1960年代以降、周辺の宅地開発などの影響で湧き水が枯渇し、水質が悪化。さらに、アメリカザリ

ガニやブラックバス、ブルーギルなど繁殖力が強く、濁った水でも生きられる外来種が外部から持ち込まれ、水草や在来種が大幅に減った。

「水抜き」全国で実施

「かいぼり」は全国各地の公園や堀、ため池などでも広く行われている。環境省は2003年、09年、16年の3回にわたり、皇居の外苑で、外来種駆除や水質浄化のためにかいぼりを実施。同省の担当者によると、ブラックバスやブルーギルなどが減ったほか、悪臭を放つアオコの発生の抑制などに効果を上げている。



(2019年6月24日 読売新聞夕刊より)

「外来種」を駆除するのは大変なのですね。

なぜ「外来種」がたくさんいるのか、考えましょう。



学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握（ア）	精査・解釈（ウ）
設 問	1	○	
	2	○	
	3		○